

保育・教職実践演習の授業改善の試み
－「にこにこタイム」の振り返り－

Attempts to improve classes for childcare and teaching practice exercises :
Looking back on “Nikoniko Time”

久米 裕紀子，脇田 栄，池川 正也
宇留嶋 美穂，河合 摂子，遠藤 晶

KUME Yukiko, WAKITA Ei, IKEGAWA Masaya
URUSHIMA Miho, KAWAI Setsuko, ENDO Aki

武庫川女子大学 学校教育センター年報

第4号 2019年

【研究報告】

保育・教職実践演習の授業改善の試み — 「にこにこタイム」の振り返り —

Attempts to improve classes for childcare and teaching practice exercises : Looking back on “Nikoniko Time”

久米裕紀子* 脇田 栄** 池川正也**
宇留嶋美穂** 河合摂子** 遠藤 晶***

KUME, Yukiko* WAKITA, Ei** IKEGAWA, Masaya**
URUSHIMA, Miho** KAWAI, Setsuko** ENDO, Aki***

要旨

本研究は、「保育・教職実践演習」の授業で実施している「にこにこタイム」の取り組みについて、学生が主体的に進めていけるようにするために行うことが目的である。「平成 29 年度」の授業アンケートでは、保育・教職実践演習での「にこにこタイム」での学びに対しては、学生たちにはおおむね効果があった。より、学生の主体性や、学びに近付けるためには、「にこにこタイム」の振り返り、分析することで、次年度の授業へ課題を明らかにしていくことを目指している。

キーワード：保育・教職実践演習 子ども理解 学びの共有 授業改善

1. はじめに

平成 28 年度から、大学 4 年次後期の「保育・教職実践演習」の授業では、より具体的に実践を積んでいくことを考え、「模擬保育」や「にこにこタイム」の実践をしている。

「模擬保育」は、3 歳児・4 歳児・5 歳児を対象に部分保育の指導計画を立てる。班で保育を考え、クラスで模擬保育を行い、計画した保育を実践し、事後に協議、考察する。

「にこにこタイム」は、模擬保育で得た保育実践の学びを深め、近隣の幼稚園の子どもたちと触れ合いを通してより実践的に学ぶことを目標に実施している。いずれも、各自がそれぞれの役割に責任をもち、主体的に考えて動き、協働する中から学びを共有することを目指している。

「にこにこタイム」を初めて実施した平成 28 年度は、イメージできる時期が早くなれば、より主体的に取り組めるように情報提供時期が課題として残った⁽¹⁾。実践 2 年目となる平成 29 年度は授業の初回から情報を共有できるように授業計画を見直した。「にこにこタイム」の実施直後のアンケートを通して、主体的に考えて動ける課題であったか、子どもと関わる経験ができたかについて検討し、2 年目の授業実践を振り返る。

2. 保育・教職実践演習とは

(1) 授業設定の背景

「保育・教職実践演習」は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認

* 教育学科講師 ** 教育学科非常勤講師 *** 教育学科教授

するものである。学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される科目である。

本学では、平成 25 年度より教職科目必修 2 単位の科目として、大学教育学科 4 年次後期に「保育・教職実践演習（幼）」が設定されている。幼稚園教諭一種免許状を基礎免許とする者及び保育士課程履修者は原則全員履修することになっている。平成 28 年度開講の「保育・教職実践演習（幼）」を受講するためには、①「教育実習 I（幼）」、②「保育実習 I（保育所）」・「保育実習 I（施設）」のいずれかを履修していることが要件として示されている。

（2）科目の目的・到達目標

「保育・教職実践演習（幼）」の科目目的は、保育・幼児教育の担い手としての生活をより円滑にスタートできるよう、保育者になる上で必要な資質能力についての自己の課題を自覚し、不足している知識や技能等を必要に応じて補い、その定着を図ることである。また、到達目標は、次の通りである。

- ①保育者として、使命感・責任感・教育保育的愛情等を有している。
- ②社会性や対人関係能力を有している。
- ③子どもを理解し、学級経営等を行うことができる。
- ④保育内容等を豊かに開発し、これを保育実践に計画的に生かしつつ指導することができる。

（3）授業形態

幼稚園免許状を基礎免許とする 3 クラス（D 組 24 名、E 組 50 名、F 組 49 名、計 123 名）が受講し、6 名の教員で担当した。授業方法は、後期火曜日 1～2 限連続開講、演習 2 コマ連続で 15 回（30 コマ）実施した。クラス毎の人数の差を考え、3～4 人の班を作り、3 クラス合同で花組・月組・星組を構成し、実践を行っていく。

3. 平成 28 年度 保育・教職実践演習の第 1 回「にこにこタイム」の振り返り

昨年度の「にこにこタイム」の成果と課題を以下の 3 点にまとめた。

- （1）どの学生にも役割があり、それぞれが役割をもつことで、責任をもって考えて、行動する必要があった。斑で動くこと、連携、共感力、協力することの楽しさや大切さを実感する機会となった。
- （2）子どもを理解することの大切さを実感し、自分たちが考えた保育で子どもが喜んでくれたという経験が、学生同士の互いの共感を生み、それぞれが保育現場に立つという確信につながり、頑張っていこうという自信になった有意義な時間であった。
- （3）計画的に進められたかという課題がある。学生たちが、自分たちで考えて動き出すまでに、少し時がかかった。「にこにこタイム」のイメージが共有し合うために時間が必要である。

4. 平成 29 年度保育・教職実践演習 第 2 回「にこにこタイム」の授業内容について

（1）授業の計画

保育者として身につけておくべき内容として、

- ① 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項

- ② 社会性や対人関係能力に関する事項
- ③ 幼児理解や学級経営等に関する事項
- ④ 保育内容の指導力に関する事項
- ⑤ 保育実践の課題に関する事項

という5つの観点から、演習、討論、実技、観察などを通じて学べるように(表1)のように授業計画を立てた。

表1 平成29年度の授業内容

| | |
|--------|---|
| 1回目 | オリエンテーション ・保育・教職実践演習の授業について ・「にこにこタイム」の概要：パワーポイントにて説明 |
| 2～8回目 | ◆使命感や責任感、教育的愛情などに関する事項 ・幼稚園教諭として大切なこと ・幼稚園の園務について ◆幼児理解や学級経営などに関する事項 ・子ども理解と保育実践について ・保育実習記録・エピソード記録：プレーンストーミング、ロールプレイなど ◆社会性や対人関係能力に関する事項 ・組織の一員として ・授業計画 具体的な事例：プレーンストーミング、ロールプレイなど |
| 9～12回目 | 保育内容の指導力に関する事項 模擬保育：保育案作成、保育の省察・協議など |
| 13回目 | 「にこにこタイム」実施 |
| 14回目 | 「にこにこタイム」の振り返り |
| 15回目 | ・幼児教育にかかわるものとしての職業観・責任感に関する事項 講演会(現役の園長先生の講話) 総括 |

平成29年度は、早い時期に「にこにこタイム」の全容を学生が把握し、学生同士が情報を共有して進められるように、1回目の授業で前年度の取り組みをスライド等で示し、全体のイメージが持ちやすいようにした。

(2) 「にこにこタイム」について

当日の「にこにこタイム」は、「おたのしみ会」と「遊びの広場」がある。「おたのしみ会」は模擬保育の中から選ばれた18班が3つの会場に分かれて設定保育の係を担当する。「遊びの広場」は各クラスで考えた遊びを6つの遊びをアゴラの遊びの係が展開する。「おたのしみ会」と「遊びの広場」をつなぐ役割として世話係が誘導する。「にこにこタイム」の全体の流れに合わせて、学生たちは班ごとに3つの役割の係に分かれて活動する。

① アゴラの遊びの係：

アゴラの「遊びの広場」では、学生が考えた6つの遊びを遊びのコーナーとして設け、一緒に子どもたちと楽しみ関わる。

サッカー・魚釣り・大型パズル・的当て・ボーリング・玉入れの6つの遊びを用意する。事前に遊びに必要な物を準備したり、ルールを決めたりしていく。

アゴラに6つの遊びのコーナーに分け、当日参加した子どもたちと一緒に楽しみ関わることをアゴラ遊びの係が担当する。

② 設定保育の係：

授業でおこなった模擬保育の実践から投票で選出された18班が当日の「おたのしみ会」で子どもたちを対象に実際に保育をする。学生たちは、3会場で前半、後半に分かれて、「表現」「言葉」「音楽」3つの保育を組み合わせる順番を決定し、指導案を練り直し当日に備える(表2)。

表2 おたのしみ会の内容

| | 304室(4歳) | 305室(5歳) | 312室(4歳) |
|----|--|--|--|
| 前半 | 1 歌「幸せならてをたたこう」 2 踊ろう「やさいたいそう」 3 お話「てぶくろ」 | 1 言葉かくれんぼ 2 赤鼻のトナカイ 3 サンタさんとトナカイくん | 1 お話「へんしんトンネル」 2 みんなでうたおう♪ 3 踊ろう！みんなで☆ |
| 後半 | 1 お話「サンタのおまじない」 2 「なりきりあてっこゲーム」 3 あわてんぼうのサンタクロース | 1 お話「サンタのひみつ」 2 あわてんぼうのサンタクロース 3 体を動かそう「できるかな」 | 1 「なべなべそこぬけ」 2 「言葉のかくれんぼ」 3 歌って踊ろう「ジングルベル」 |

③ 世話係：

園児たちを園まで迎えに行き、引率をする。子どもたちに付き添い、誘導、水分補給、手洗いなど子どもたちの世話をする。

5. 「にこにこタイム」のアンケート

(1) アンケート実施と回収

- ① 対象：123名受講生のうち、「ニコニコタイム」に出席した学生のうち回収された113名のアンケートを分析対象とする。
- ② 内容：実施したアンケートの内容は表3の通りである。

表3 「にこにこタイム」アンケート

Q1「にこにこタイム」は楽しかったですか
 ① 楽しなかった ② 少し楽しかった ③ 楽しかった ④ とても楽しかった
Q2「にこにこタイム」で園児たちとのかかわりの中で学びはありましたか？
 ① なかった ② 少しあった ③ あった ④ とてもあった
具体的に：
Q3「にこにこタイム」を保育・教職実践演習の経験はどうでしたか？
 ① よくなかった ② 少しよかった ③ よかった ④ とてもよかった
具体的に：理由：
Q4「にこにこタイム」を通して、何を感じましたか？
Q5「にこにこタイム」での自分の役割は何でしたか？
Q6その役割から何を学びましたか？
Q7「にこにこタイム」のイメージは、いつ頃、持つことができましたか？
 ・最初のオリエンテーションで昨年度の様子をパワーポイントで見た時
 ・模擬保育などの授業しているうちに
 ・アゴラの遊びやにこにこタイムに向けての準備をしていくうちに
 ・当日
 ・その他：
Q8「にこにこタイム」の感想・意見を聞かせてください。

(2) 「にこにこタイム」の回答より

- ① 「にこにこタイム」は楽しかったか。
 (1:0人 2:13人 3:69人 4:31人)

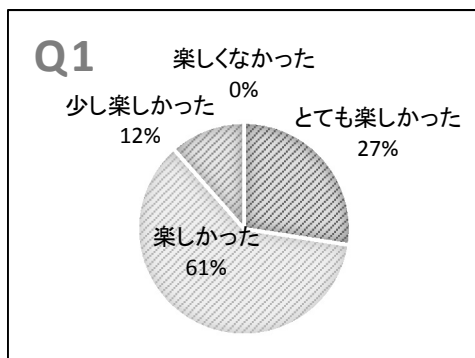


図1 「にこにこタイム」は楽しかったか

「にこにこタイム」を楽しめたかどうかについては、113名のうち楽しくなかったという学生は0人である。楽しかった、とても楽しかったを合わせると88%になり、全員が少しでも楽しんだことが分かる。実際に子どもたちと関われる機会をもつことに大きな意義があると言えるのではないかと。少し楽しかったという12%の学生について、次のアンケート項目での回答にも着目して分析していきたい。

② 「にこにこタイム」で園児たちとの関わりの中での学びはあったか

(1 : 2人 2 : 14人 3 : 70人 4 : 27人)

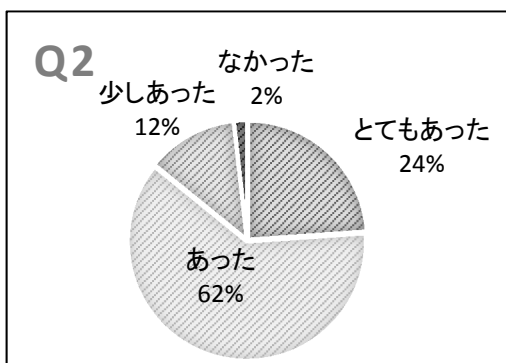


図2 園児たちとの関わりからの学び

園児たちと触れ合う機会を、学生たちは期待し、喜んでいて、だからこそ、かかわろうという積極的な気持ちで取り組めた。

しかし、全員が、何らかの形で子どもと触れ合えるようにと計画していたが、なかったと回答は2%である。ここに注目してみると、Q3の項目では、よかったと回答していることが分かった。学びについての学生の意識をどうかを分析していきたい。

④ 「にこにこタイム」は教職実践演習の経験としてどうか

(1 : 0人 2 : 13人 3 : 72人 4 : 28人)

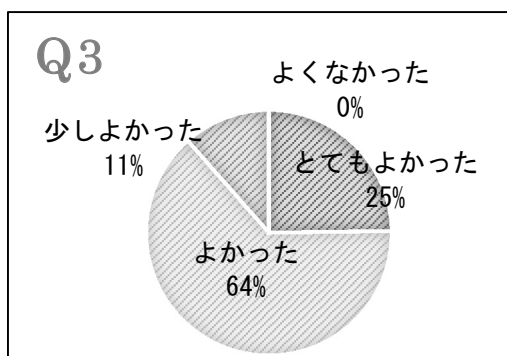


図3 「にこにこタイム」の経験はどうだったか

学生同士の模擬保育だけでは得られない経験がある。設定保育を計画し、実践し、子どもたちと触れ合い、関わりの難しさ、楽しさ、面白さ、子どもらしさを感じ取るという学びがあった。目の前の子どもたちに対応しながら、保育をすることの責任ややりがいを感じたのではないかな。

⑤ 「にこにこタイム」のイメージは、いつ頃、持つことができたか

表4 イメージがもてた時期はいつか

| | |
|--------------------------|-----|
| 第1回目授業 | 5人 |
| 模擬保育などの授業をしているうちに | 14人 |
| アゴラの遊びや当日に向けての準備をしていくうちに | 51人 |
| 当日 | 39人 |
| その他 | 2人 |

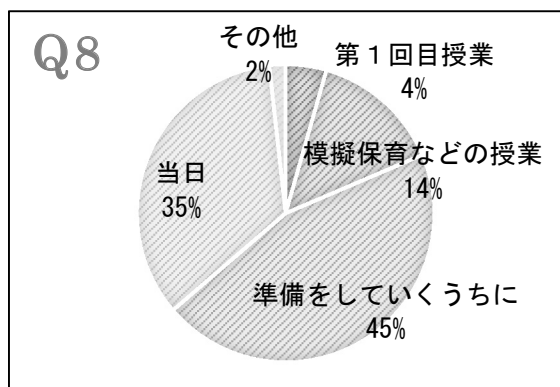


図5 イメージはいつも持てたか

初回の授業で、実際の活動の写真を見せたが、一度だけでは、イメージをもつことができなかった。準備をしながら「にこにこタイム」について、どういうものなのかを少しずつ理解していくことが分かった。

(3) 担当グループの分析と課題

次に、全体的なイメージを担当の係で共有していくことが学生の主体性にもつながるのではないかと考え、各担当の係の意識について分析していく。

Q1～Q3の設問の回答から、なかった：1点、少しあった：2点、あった：3点、とてもあった：4点として得点化し、係ごとの平均値を比較し分散分析を行った結果、Q1とQ3では、各役割の間の差はなかったが、Q2の設問に対して、アゴラの遊び係は $X(-)=2.81$ であり、設定保育の係 $X(-)=3.30$ 、世話係 $X(-)=3.09$ に比べて低く(図6)、Bonferroni方法による多重比較の結果、有意な差が認められた($F(2,109)=6.965$ $p<.001$) (表4)。

※ ①なかった：1点 ②少しあった：2点 ③あった：3点 ④とてもあった：4点として集計した。

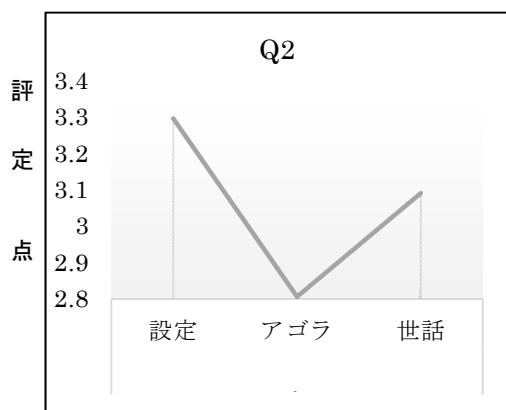


図6 担当グループの学び

表4 子どもとの関わりで学があったか：分散分析

| 係 | グループ | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F値 | 有意確率 |
|--------------|-------|--------|-----|-------|-------|----------|
| 1 設定保育 (55名) | グループ間 | 0.357 | 2 | 0.179 | 0.482 | 0.619 |
| | グループ内 | 40.775 | 110 | 0.371 | | |
| | 合計 | 41.133 | 112 | | | |
| 2 アゴラ(36名) | グループ間 | 5.203 | 2 | 2.602 | 6.965 | 0.001 ** |
| | グループ内 | 40.716 | 109 | 0.374 | | |
| | 合計 | 45.92 | 111 | | | |
| 3 世話係(22名) | グループ間 | 0.646 | 2 | 0.323 | 0.926 | 0.399 |
| | グループ内 | 38.363 | 110 | 0.349 | | |
| | 合計 | 39.009 | 112 | | | |

また、Q9の感想の自由記述内容を、良かった点と改善点・要望などの内容に分けたところ、良かった点は50、改善点・要望などは49の小項目が抽出され、類似した内容を整理すると、良かった点については8つ、改善点・要望については7つの大項目にまとめることができた。担当係ごとの、大項目の割合を示した(表5・表6)。

表5 Q9 感想 良かった点

| | 設定保育の係 (55人) | アゴラ遊びの係 | 世話係 (22人) |
|----------------------|--------------|---------|-----------|
| 子どもに関われてよかった | 46.1 | 36.2 | 47.6 |
| 楽しく貴重な体験だった | 20.2 | 19 | 19 |
| 自己課題や目標を持つことができた | 10.1 | 10.3 | 14.3 |
| 子どもと学べる授業で今後も続けてほしい | 4.5 | 13.8 | 9.5 |
| 子どものことを考えて教材研究をした | 7.9 | 1.7 | 4.8 |
| 保育をする楽しさ・声かけの必要性を学んだ | 4.5 | 8.6 | 0 |
| 友達の保育を見ることができた | 3.4 | 6.9 | 4.8 |
| 友達と協力できた | 3.4 | 3.4 | 0 |

表6 Q9 感想 改善点・要望

| | 設定保育の係 (55人) | アゴラ遊びの係 | 世話係 (22人) |
|------------------|--------------|---------|-----------|
| 当日の情報を事前に共有したかった | 27.7 | 28.6 | 58.8 |
| 準備の時間を事前に共有したかった | 31.9 | 28.6 | 11.8 |
| イメージが分からなかった | 12.8 | 21.4 | 11.8 |
| 人数が多かった | 10.6 | 10.7 | 5.9 |
| 学生同士で相談すればよかった | 4.3 | 10.7 | 5.9 |
| 場所が狭かった | 6.4 | 0 | 5.9 |
| 時期を考えてほしい | 6.4 | 0 | 0 |

① アゴラの遊び係の感想と課題

アゴラの遊び係の学生が、なぜ、設定保育や世話係に比べて、園児たちとの関わりの中での学びが低いと感じていたのか、Q3の「にこにこタイム」の経験についての設問と、Q9の良かった点

を述べた感想（表5）から考えてみたい。

Q3の「にこにこタイム」の経験についての設問に対して（表7）、よかった、アゴラの遊び係を通してとてもよかったと解答している学生は86%である。

一方、Q9の感想の良かった点のうち、設定保育係46.1%、世話係47.6%が「子どもに関わられてよかった」と述べているのに対して、アゴラの遊び係は36.2%と他の係に比べて低い割合で、子どもたちと十分に関わることができたと実感が持てなかったことが見て取れる。

表7 アゴラの遊び係の感想

| | 合計36人 |
|---------|--------|
| とてもよかった | 19.40% |
| よかった | 66.70% |
| 少しよかった | 13.90% |
| よくなかった | 0.00% |

アゴラの遊び係の学生たちは、この経験はよかったと思っているが、子どもへの関わりについて物足りなさがあるということである。子どもと十分に関わるよう自分たちで計画していく、進行していくという実感が少なかったのではないか。自分たちで作っていくという意識や意欲がもてるよう、係で十分に理解し話し合う時間を確保するなどして、授業の中で、学生の主体性を引き出す展開が必要であることが見えてきた。

② 設定保育係の感想と課題

設定保育係は、授業内で模擬保育の経験をして、子どもたちの前で保育をする班として選ばれている。選ばれようと取り組んでいる学生が多いということが、イメージを自分たちで共有して進めていくことにつながった。

Q9 感想 改善点・要望 として設定保育の係の31.9%が「準備の時間が少なかった・時間があればよかった」と述べており、幼児の年齢や人数を考慮した保育に考え直すための時間が必要である。保育のねらいが達成できるように班での話し合いの時間や教材の準備を進めていく時間をもつことが必要である。

③ 世話係の感想と課題

Q7の何時の時点で、「にこにこタイム」のイメージが持てたのかに対する設問に、設定保育係・アゴラの遊び係は、半ば過ぎと答えているが、世話係は当日にイメージがもてた割合が37%と、ほかの2つの係より高い割合を示した（図9）。

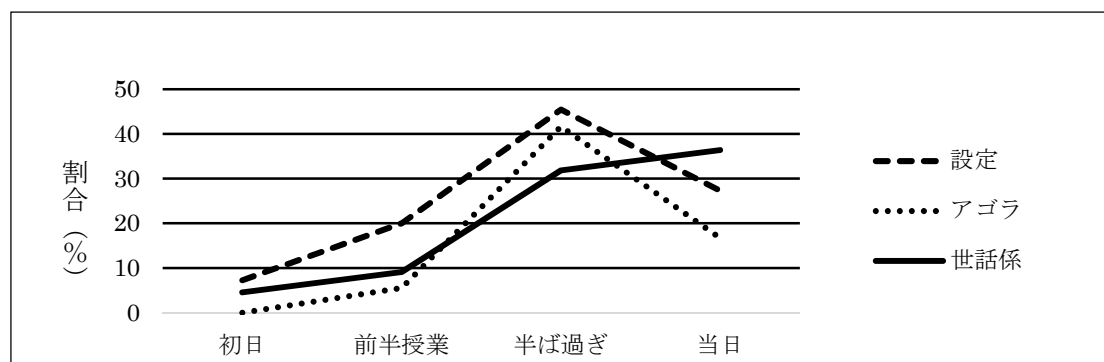


図9 何時の時点で「にこにこタイム」のイメージを持てたのか

Q9の感想では、改善点・要望についての係ごとの割合を見ると（表6）、世話係の58.8%が「当日の情報を事前に共有したかった」と述べており、世話係は他の係に比べて当日まで担当の具体的なイメージをもちにくかった、全体の流れや情報共有が十分でなかったことが示された。事前に自分

たちの役割が理解できても、実際に子どもたちと出会って、臨機応変に対応することが求められることが多く、より安心して取り組めるように、当日の具体的な役割を把握し、事前に情報共有ができる時間の確保が必要である。

5. 全体的考察

保育・教職実践演習での「にこにこタイム」での学びに対しては、学生たちにはおおむね効果があった。より、学生の主体性や、学びに近付けるためには、各系の役割、係全体での確認の時間を考慮して授業計画の見直しを行う必要がある。

各系の役割から各自の主体性が高まるようにするには、

- (1) 「にこにこタイム」のイメージの共有化
 - (2) 自分たちが中心になって進めていくという主体性の確立
 - (3) 子ども理解など、自分が何を学ぼうとしているのかを役割の係で明確化
- という3点が次年度への課題である。

具体的には、

- (1) アゴラの遊び系の学生は、自分たちで教材は作るが、それをどう活かし、どう進行していくかを共有していくことが必要である。
- (2) 世話系の学生は、当日の流れと自分たちの動きを把握するために、会場についてのイメージ、誘導などについて話し合う時間をもつ。
- (3) 設定保育系の学生は、短い時間の中で、保育のねらいが達成できるように班での話し合いの時間や教材の準備を進めていく時間をもつ。

学生の意見の中で、幼稚園の現場での教育実習では、先輩の保育者の保育を観察し、たくさんの学びがあった。しかし「にこにこタイム」では、自分たちと同じ学生がする保育を見て、自分ならどうするかという視点で観察することができたことが嬉しいという意見、世話係で子どもと一緒にいろいろな経験ができたという意見などがあった。

学生が子ども役になってする模擬保育では経験できない子どもの生のつぶやきや反応に対して、どう援助していくのかという、瞬時の対応、臨機応変な機転をはたかせることが必要になる。子どもとの直接的な経験を通して大きな気付きや自分の課題が見えてくる。

自分の課題をしっかりと見つめ、4月から子どもたちとの出会いに活かしてほしいと願っている。

注・引用文献

- (1) 久米裕紀子・遠藤晶・山口照代・橋本香代子・大西有紀・伊藤菜穂美「子ども理解を探る保育・教職実践演習」『学校教育センター年報』第3号，2018，pp. 131-141

参考文献

- (1) 汐見稔幸「日本の保育・幼児教育はどこへ向かうのか」『発達』154，ミネルヴァ書房，2018，pp. 2-8
- (2) 無藤隆・汐見稔幸・砂上史子「3 法令ガイドブック」フレーベル館 2017，pp. 12-13
- (3) 秋田喜代美「保育者の専門性の探求」『発達』134，ミネルヴァ書房，2013，pp. 14-21
- (4) 中島紀子・横松友義『保育指導法の研究』ミネルヴァ書房，2007
- (5) 秋田喜代美『教師のさまざまな役割』チャイルド本社，2006，pp. 69
- (6) 児童育成協会『保育者論』中央法規，2015，pp. 171-173